

## press release

---

### 人気犬種の飼い主 1,000 名に聞く「人気犬種にこだわる飼い主の犬種別意識調査」

近年では、1300万頭にのぼる飼い犬のうち、純血種の占める割合は7割(71.2%)を超えています。<sup>※1</sup>特に日本の住宅事情下における室内飼いに適した小型犬種の人気が続いていますが、見た目のかわいらしさに惹かれて飼い始める飼い主も少なくありません。このような中で、マース ジャパン リミテッド(本社:東京都目黒区、社長:デビッド・ティーズデイル)「パーフェクトフィット」は、人気の犬種を選んだ飼い主像にせまるべく、「人気犬種の飼い主<sup>※2</sup>1,000名に聞く! 人気犬種にこだわる飼い主の犬種別意識調査」を実施いたしました。

本調査では、愛犬の存在を「家族」「子供」など、家族の一員として捉える飼い主が約5割(46.9%)に上るのに対して、実際に現在飼っている愛犬を選んだ決め手として「見た目」を6割近く(55.9%)の飼い主があげており、「性格」や「相性のよさ」は、あまり考慮されていない実情が明らかになりました。結果として、全体の過半数にあたる飼い主(51.9%)が、事前の犬種に関する知識不足を感じており、特にしつけを行う場面において、犬種別の知識の不足を訴えています。愛犬の世話に関しては、犬種の特性にあわせて犬種別になんらかの飼育の工夫を行っている飼い主は全体の9割を占めるものの、各個別項目では、飼育環境(26.9%)や犬種のかかりやすい病気(36.3%)に配慮している飼い主の割合は低い割合にとどまっており、病院を利用したことがある飼い主の4人に1人(25.6%)が「犬種別の知識が不足していた」ため病気を悪化させたことがあるという結果が明らかになりました。

「人と動物が楽しく暮らせる社会づくり」の実現を推進する友愛動物病院グループ代表取締役の津田圭子先生からは本調査に対して、次のようなコメントをいただきました。『犬種別に特化したサービスやケアを望む飼い主は約半数(45.6%)にのぼることから、愛犬の健康のために犬種別により細かいケアを行いたいという飼い主が多いことが明らかになっています。一方で、実際にどのようにケアすればよいかわからない飼い主が多いのではないかと推測されます。飼い主・愛犬ともども幸せな生活を送るためには、飼い主がその犬種の特徴や気質を良く理解し、食事や室内環境の整備など犬種別にケアを行っていくことが重要ですが、そのためには、飼い主に分かりやすい犬種別ケアの知識の普及が重要であると言えるでしょう。』

※1 2007年「犬猫飼育率全国調査」ペットフード工業会

※2 社団法人ジャパン ケネルクラブ(JKC)の2006年犬種別犬籍登録頭数の上位10犬種(ミニチュア・ダックスフンド、チワワ、トイ・プードル、ヨークシャー・テリア、パピヨン、ポメラニアン、シーズー、ミニチュア・シュナウザー、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、フレンチ・ブルドッグ)の飼い主を対象に実施

## 調査概要

【調査期間】 2008年5月9日～5月12日

【調査対象】 20代～60代の人気10犬種の飼い主の男女

【対象者移住地】 東京都、大阪府、愛知県

【調査方法】 インターネットアンケート

アンケートモニターから対象者を抽出

WEB上のアンケートへ回答

【標本構成】 有効回収サンプル 1,000名の標本構成は以下の通り

全体	1,000	100.0%
ミニチュア・ダックスフンド	308	30.8%
チワワ	168	16.8%
トイ・プードル	123	12.3%
ヨークシャー・テリア	59	5.9%
パピヨン	68	6.8%
ポメラニアン	63	6.3%
シーズー	77	7.7%
ミニチュア・シュナウザー	34	3.4%
ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	76	7.6%
フレンチ・ブルドッグ	24	2.4%

全体	1000	100.0%
東京	500	50.0%
大阪	250	25.0%
名古屋	250	25.0%

全体	1000	100.0%
男性	352	35.2%
女性	648	64.8%

※ 各図の中の(SA)、(MA)はそれぞれ以下を表しています。

(SA)選択肢から1つを選択する回答形式

(MA)選択肢から複数の選択を可能にする回答形式

※ 各図の中のNIは、その質問への回答者の数を表しています。

(例: N=300 は、回答者が 300 人)

### 🐾 本件に関するお問い合わせ

株式会社コムデックス 担当：湯浅、旦尾(あさお) TEL 03-3403-0650 FAX 03-5770-0561

### 🐾 マース ジャパン リミテッドに関するお問い合わせ

マース ジャパン リミテッド 広報部小川 TEL 03-5434-3334

## 飼い主にとっての愛犬とは？

- 🐾 愛犬の存在は、「家族の一員」約 5 割(46.9%)
- 🐾 大切なもののランキング:愛犬は子供、配偶者に次いで、3 番目(38.7%)
- 🐾 愛犬へ伝えたいこと:「長生きしてね」が、「ありがとう」と「愛してる」と同列トップ

### 🐾 愛犬の存在は、「家族の一員」約 5 割(46.9%)

愛犬の存在を一言でたとえると何になるかという質問では、「家族、兄弟姉妹」が 31.8%が占め、子供や孫の 15.1%を足すと、全体の 46.9%が家族として考えていることがわかりました。実際に愛犬が「家族の一員」として確固たる地位を築いている状況が浮き彫りになっています。(表 1)

【表 1】 飼い主にとってどんな存在ですか N=1000

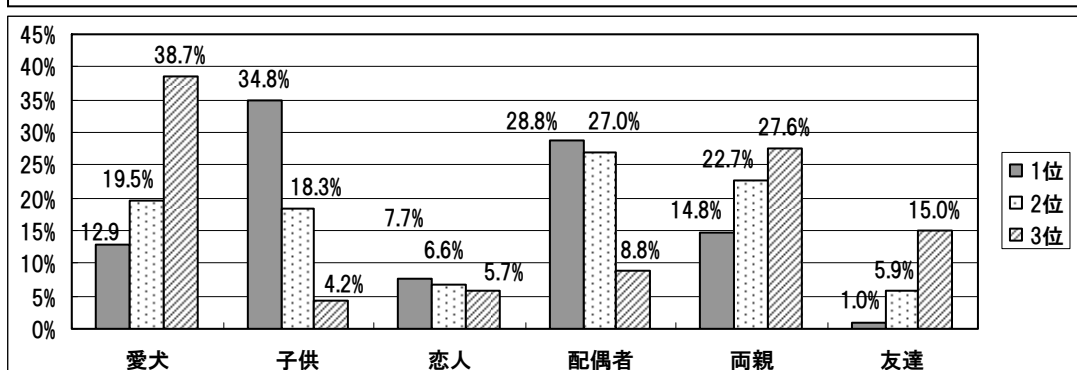
家族、兄弟姉妹	318	31.8%
癒し、和み	153	15.3%
子供、孫	151	15.1%
友達、仲間、親友、相棒	101	10.1%

### 🐾 大切なもののランキング:愛犬は子供、配偶者に次いで、3 番目(38.7%)

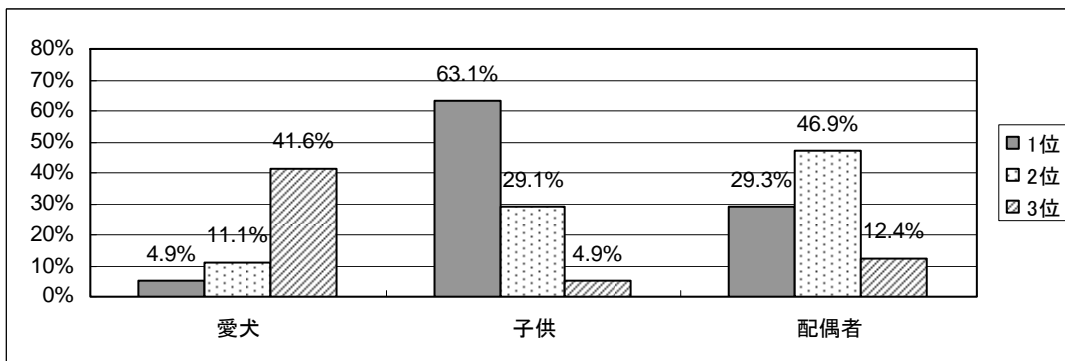
家族の中での愛犬の位置付けは家族構成によっても異なりますが、全体では人間の家族の次という順序が保たれており、1 位に子供 34.8%、2 位は配偶者 27.0%になっています。(図 1)

配偶者・子供と同居している世帯では、1 位子供 63.1%ですが、2 位は配偶者 46.9%、3 位で愛犬 41.6%になっています。一方、夫婦二人世帯では、1 位配偶者 61.6%、2 位両親 34.9%、3 位愛犬 40.9%になっており、意外にも夫婦の結び付きの強さが改めて実感できる結果となっています。(図 2、3)

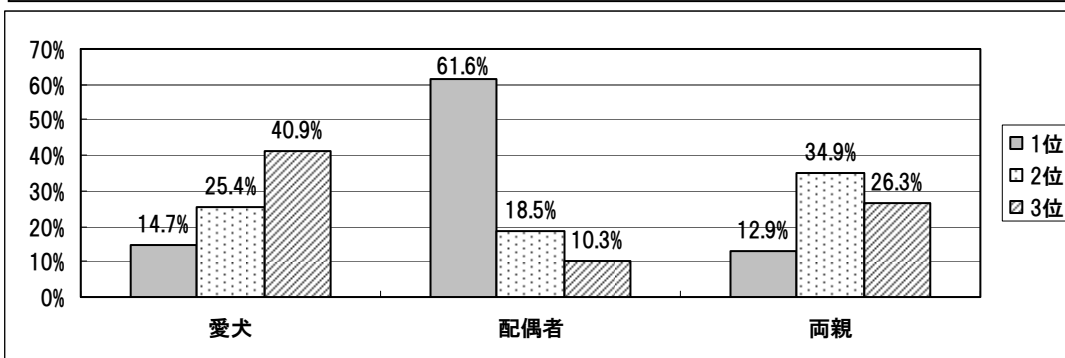
【図 1】 自分にとって大切だと思うもの N=1000



【図 2】 自分にとって大切だと思うもの(配偶者・子供同居世帯) N=450



【図 3】 自分にとって大切だと思うもの(夫婦二人世帯) N=232



## 🐾 愛犬へ伝えたいこと:「長生きしてね」が、「ありがとう」と「愛してる」と同列トップ

愛犬に伝えたい一言は、飼い主にとっての愛犬の大切さを物語る「ありがとう」18.9%、「愛してる」18.1%、「長生きしてね」18.0%の3つの言葉が上位に並びました。(表 2)

特に「愛している」や「ありがとう」とほぼ同数で「長生きしてね」と飼い主が愛犬に対して願っている点が興味深く、いつか先にいなくなってしまう存在であるけども、できるだけ長生きして欲しいという飼い主の希望が表れているようです。

【表 2】 伝えたい一言 N=1000

ありがとう	189	18.9%
愛してる、大好き	181	18.1%
長生きしてね	180	18.0%

## 愛犬家生活の実情は？

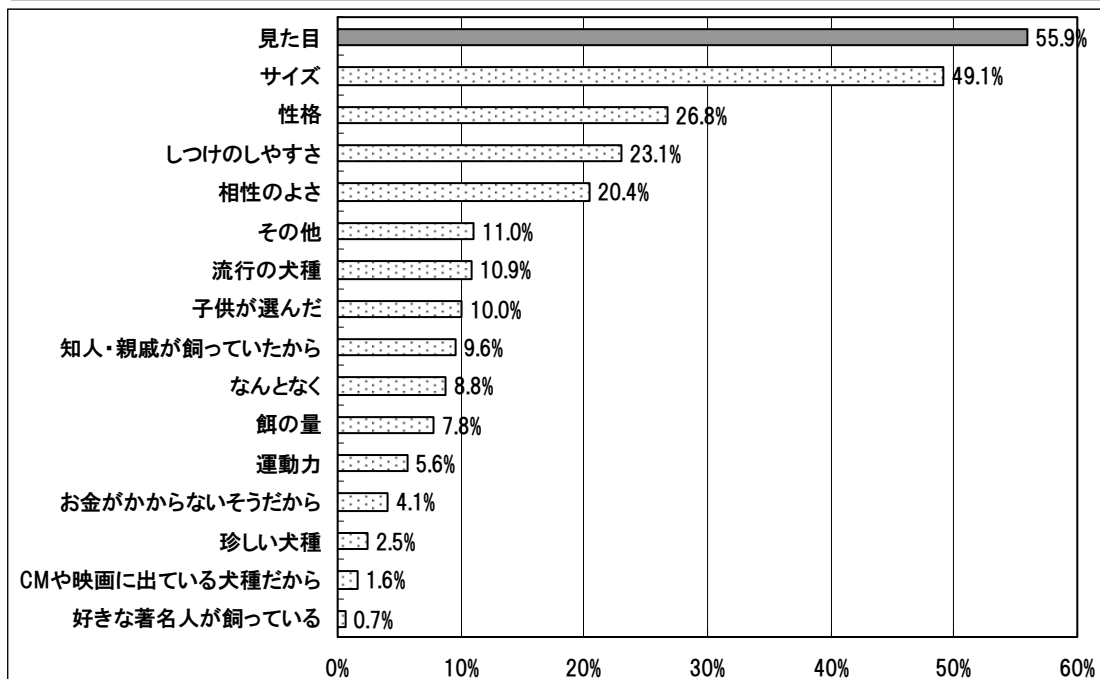
- 🐾 6割近く(55.9%)の飼い主が、現在の愛犬を選んだ決め手は「見た目」
- 🐾 過半数(51.9%)の飼い主が、事前の犬種別知識が不足していたと実感
- 🐾 愛犬との生活満足度に大きな開き:事前の知識不足の有無で20%以上
- 🐾 愛犬改善願望:4割(37.6%)が「吠え癖」
- 🐾 同じ飼い主としても不快:許せないマナーのトップは、「糞の不始末」が6割以上(61.6%)

### 🐾 6割近く(55.9%)が、現在の愛犬を選んだ決め手は「見た目」

一説には1万5000年も前からペットとして飼われていたといわれている犬ですが、一口に犬といっても、羊などの家畜を外敵から守り群れを誘導する牧畜犬や、優れた嗅覚などを用いて小動物を狩る狩猟犬など、その作られた目的によって、さまざまな外見や性質を持つ犬種が存在します。

それでは、飼い主は犬種選びの際に何を重要視するのでしょうか。現在飼っている犬種を選んだ理由をたずねたところ、「見た目」が6割(55.9%)を占める結果となりました。長い時間を共有することになるにもかかわらず、「性格」(26.8%)や、「相性の良さ」(20.4%)はその半分以下にとどまっています。(図4)

【図4】犬を飼う決め手(MA) N=1000

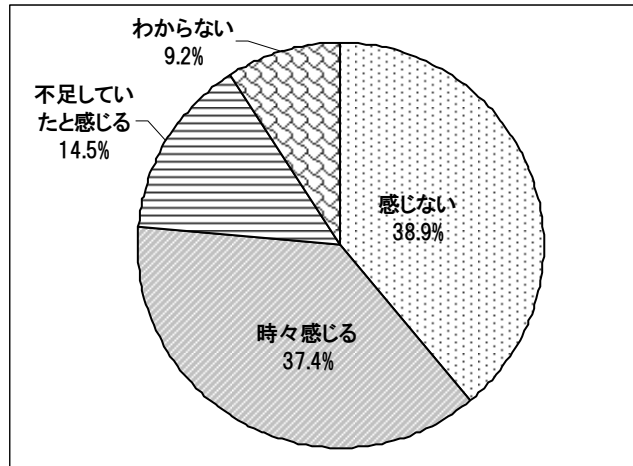


## 🐾 過半数(51.9%)が、事前の犬種別知識が不足していたと実感

長く付き合った相手でも、一緒に暮らし初めて相手の知られざる一面に気付くことは良くあることですが、犬と飼い主の関係でも、「見た目」だけでは分からないことにとまどう飼い主は多数にのぼります。『飼う前に犬種ごとの特性・性格に関する知識が不足していたか』という質問に対して、半数以上の 51.9%の飼い主が、「不足を感じる」もしくは「時々不足を感じる」と答えています。(図 5)

どのような時に『不足していたと感じるか』という問いに対しては、「しつけしているとき」28.1%、「思ったより吠えるとき 11.8%」などがあがっています。(表 3)

【図 5】 飼う前に犬種別知識が不足していたと感じますか N=1000



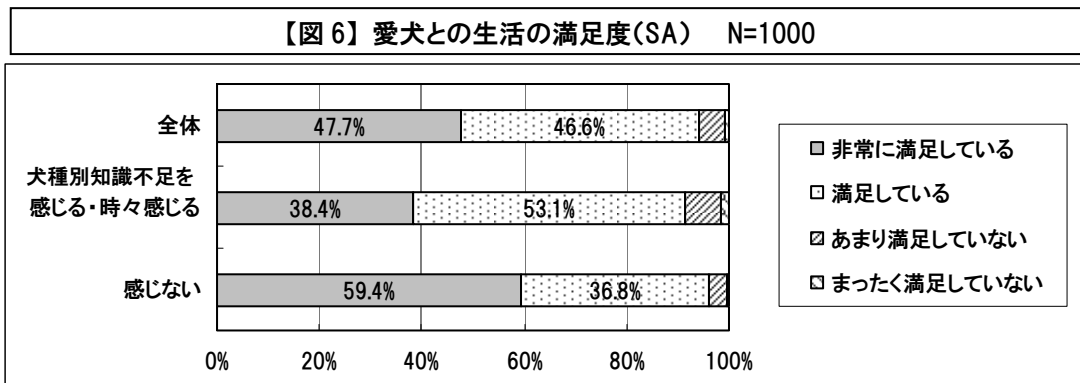
【表 3】 どのような時に不足と感じますか N=519

しつけしているとき	146	28.1%
思ったより吠えるとき	61	11.8%
性格が犬種によって違う	51	9.8%

## 🐾 愛犬との生活満足度に大きな開き:事前の知識不足の有無で20%以上

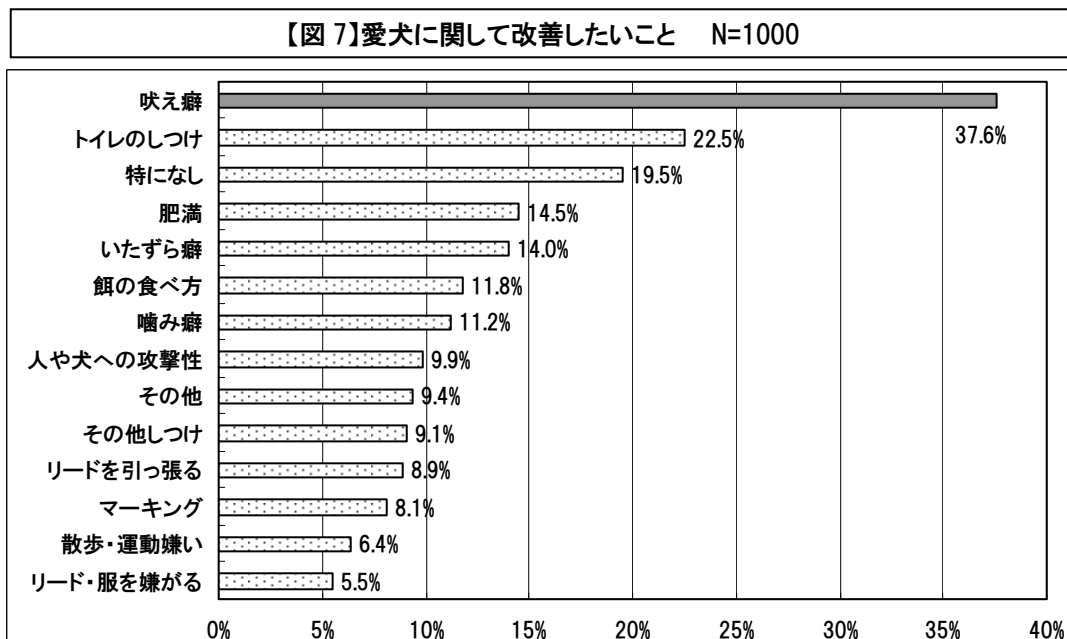
一般的に飼い主の愛犬と一緒にの生活に対する満足度は高く、半数に近い飼い主(47.7%)が『愛犬との生活全般』に「非常に満足している」と答えています。

しかし、「飼う前に犬種別知識が不足していたと感じる」飼い主は満足度が低い傾向にあり、「感じない」飼い主の59.4%が「非常に満足している」のに対して、「感じる・時々感じる」飼い主は、38.4%に過ぎません。「見た目」で選んだ際の意外な落とし穴が、こんなところにあるようです。(図6)



## 🐾 愛犬改善願望:4割(37.6%)が「吠え癖」

「見た目」だけでは分からない一緒に暮らしてみないとわからないこと、それは、愛犬の吠え声かもしれません。ありのままを受け入れることができれば理想ですが、実際には、約4割の飼い主にあたる37.6%が愛犬の吠え癖を改善したいと答えています。隣家との距離が近い都会の飼い主にとって、時には騒音にもなりかねない吠え声が、一番の悩みの種だと言えるのでしょうか。(図7)



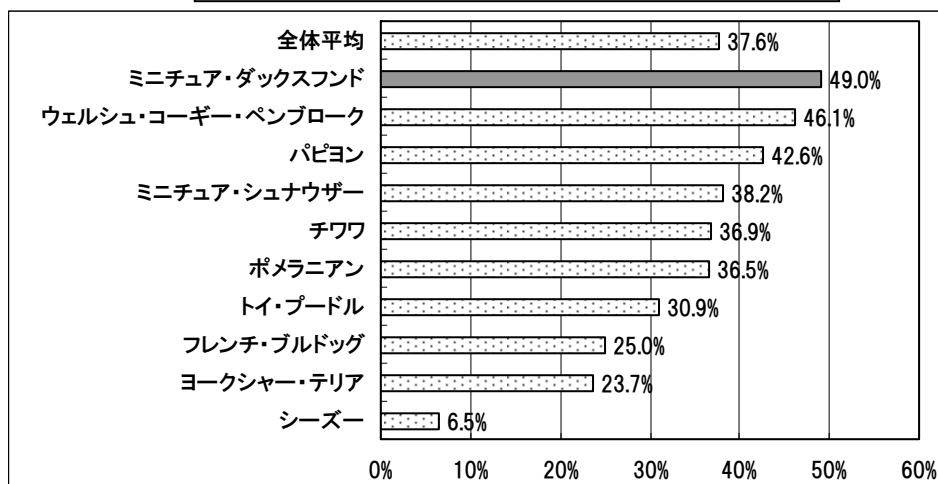
## トピックス

### 「吠え癖」に悩むダックスフンドの飼い主 最も少ないシーズー 6.5%の約 8 倍の 49.0%。

吠えるという行動は犬共通の行動ですが、「吠え癖」が悩みの種になるかどうかは、犬種によって異なる傾向が出ています。

ミニチュア・ダックスフンドは、1999年から、10年連続で人気犬種トップ\*の座を守り続けている犬種ですが、もともとは猟犬。小動物を巣穴まで追い詰めて仕留める猟で活躍し、遠くにいる飼い主に獲物のありかを知らせるのに長けているので、良く通る野太い吠え声に特徴があります。そのため、他の犬種の飼い主に比べると吠え癖に悩む飼い主の割合が高く、約半数の49.0%を占めています。(図8)

【図8】愛犬に関して改善したいこと(犬種別):吠え癖



\* 社団法人ジャパン ケネルクラブ(JKC)の犬種別犬籍登録頭数 1999年～2007年のデータより。2007年現在、ミニチュア・ダックスフンドの登録件数は、88,615頭。過去10年間で最多の年度は、2003年の167,780頭である。

## 🐾 同じ飼い主としても不快：許せないマナーのトップは、「糞の不始末」が6割以上

路上や公園で散歩している犬と飼い主を非常に多くみかける昨今ですが、散歩時のマナー違反は同じ飼い主だからこそ、余計に腹が立つことなのかもしれません。全体で6割以上(61.0%)もの飼い主が「糞の不始末」を許せないと答えています。糞の始末は、犬を散歩させるときの最低限のマナーであると多くの飼い主が認識している一方、マナー違反の飼い主が後を絶えない現実があらわとなっているようです。その他、散歩時や公園で犬を自由に歩かせる「ノーリード」も全体の18.9%と高い割合を占めています。犬の安全性や、他の人間への配慮として、リードをつけて公共の場所に行くことが、愛犬家としての義務と言えるでしょう。(表4)

【表4】他の愛犬家の許せないマナー N=793

糞の不始末	484	61.0%
ノーリード・長すぎるリード	174	21.9%
吠え声	74	9.3%

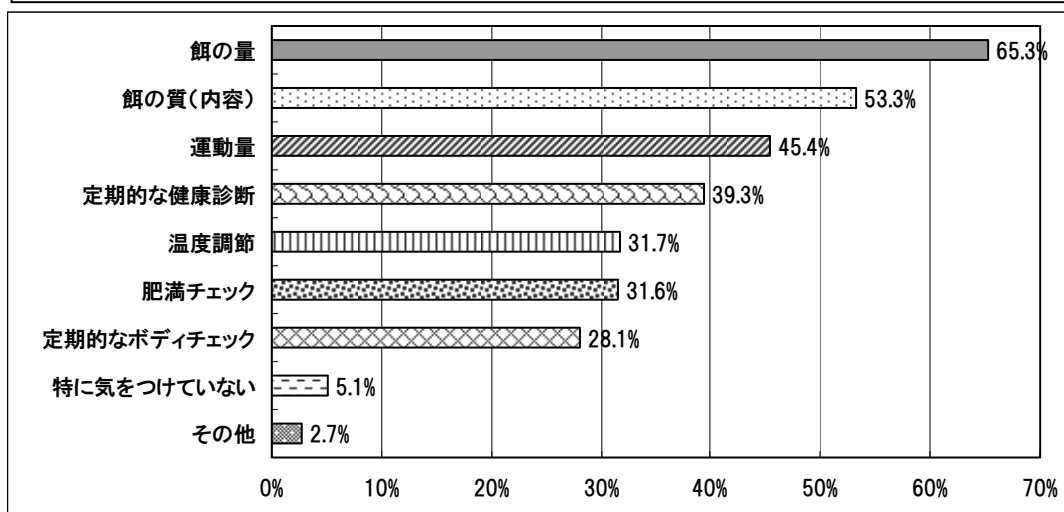
## 愛犬のケアの常識は？

- 🐾 肥満大敵：餌の量に気をつける飼い主は 65.3%、肥満チェックは 31.6%が実施
- 🐾 愛犬のケアがもっとも大変な季節：半数(47.4%)が 8 月に集中
- 🐾 犬種別にかかりやすい病気にご注意：4 人 1 人(25.6%)知らずに愛犬の病気悪化を招く
- 🐾 犬種別が飼育の新常識：飼い主の 9 割(90.1%)が、犬種別に飼育を工夫

### 🐾 肥満大敵：餌の量に気をつける飼い主は 65.3%、肥満チェックは 31.6%が実施

愛犬に長生きしてもらうためには、日々の健康管理が欠かせないのは、人間も犬も同じ。定期的な健康診断を実施している飼い主は、39.3%にのぼります。また、肥満チェックを行っている飼い主 31.6%をはじめ、餌の量に気をつけている 65.3%、運動量に気をつけている 45.4%など、特に愛犬の肥満に対して高い意識を持っているのが最近の飼い主の特徴と言えるようです。(図 9)

【図 9】 愛犬の健康のために気をつけていること(SA) N=1000



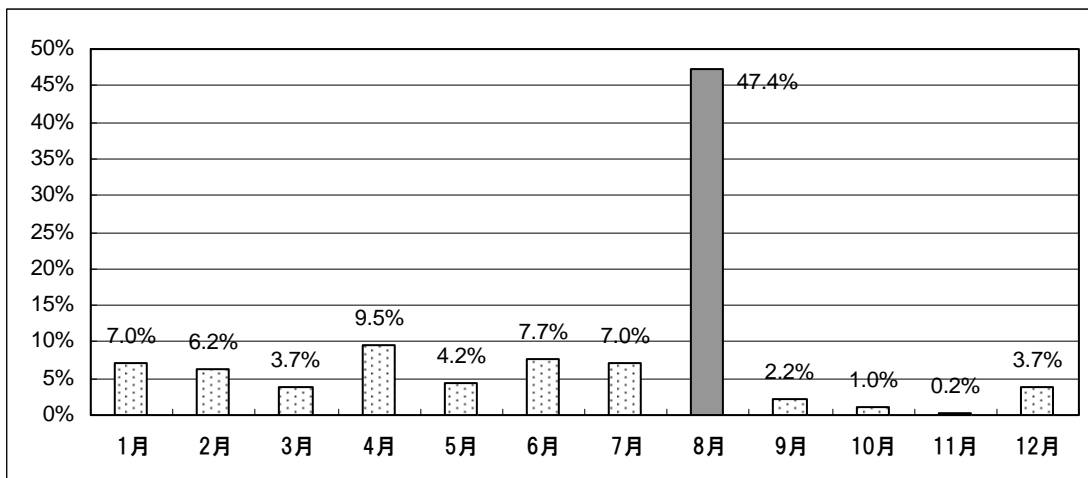
## 🐾 愛犬のケアがもっとも大変な季節：半数(47.4%)が8月に集中

人間も季節によってさまざまな体の不調が出てきますが、飼い主がもっとも気を使う季節のトップは8月がダントツの47.4%となりました。(図10)

現在日本で人気の犬種の原因は、年間を通して日本よりずっと気温の低いヨーロッパや山岳地帯などがほとんどです。犬には汗腺がないため、発汗ではなく、呼吸を通してしか体温調節ができないため暑さが苦手です。シーズーやフレンチ・ブルドッグなどの鼻が短い犬種は、速い呼吸が苦手なため体温を下げるのに苦労するため暑さに特に弱く、そのような犬種の飼い主はさらに注意が必要です。

8月のケアがもっとも大変な理由としては、室内の温度調節や、散歩時などに全般的に「暑さ対策が必要だから」と答えた飼い主が45.8%、それぞれ特に「暑い時間の散歩を避ける必要があるから」が17.4%、「室内温度の調節が必要だから」が16.3%となりました。(表5)

【図10】 飼育・世話が最も大変な時期(SA) N=401

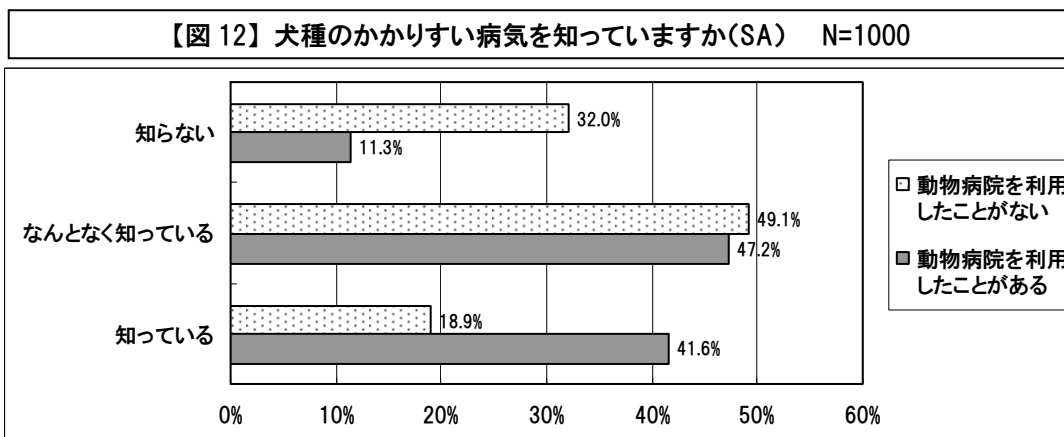
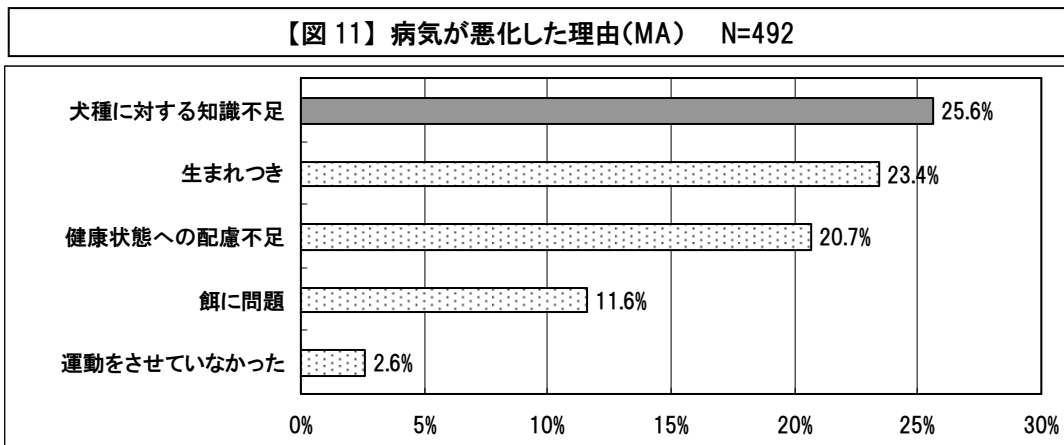


【表5】 8月がもっとも世話が大変な理由 N=190

暑さ対策が必要だから	87	45.8%
暑い時間の散歩を避ける必要があるから	33	17.4%
室内温度の調節が必要だから	31	16.3%

**🐾 犬種別にかかりやすい病気にご注意:4人1人(25.6%)知らずに愛犬の病気悪化を招く**  
 胴体の長さなどの体格や目や鼻の形などの外見的特徴、さらに遺伝的な要素などによっても、犬種ごとにかかりやすい病気は異なります。そのような中で、病気で病院を利用したことのある飼い主の25.6%が、「犬種ごとにかかりやすい病気に対する知識不足」で病気を悪化させてしまったことがあることが明らかになりました。(図11)

自分の飼っている犬種のかかりやすい病気についての知識は、動物病院を利用したことのある飼い主は、41.6%が「知っている」のに対して、利用したことのない飼い主は18.9%にとどまっていることから、病気になるまでは、自分の愛犬の弱点を意外に知らない飼い主の実情がみえます。(図12)

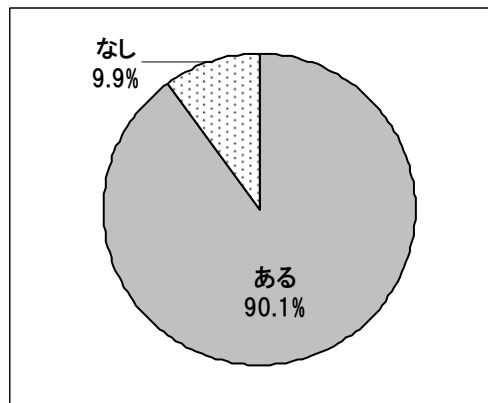


## 🐾 犬種別が飼育の新常識: 飼い主の9割(90.1%)が、犬種別に飼育を工夫

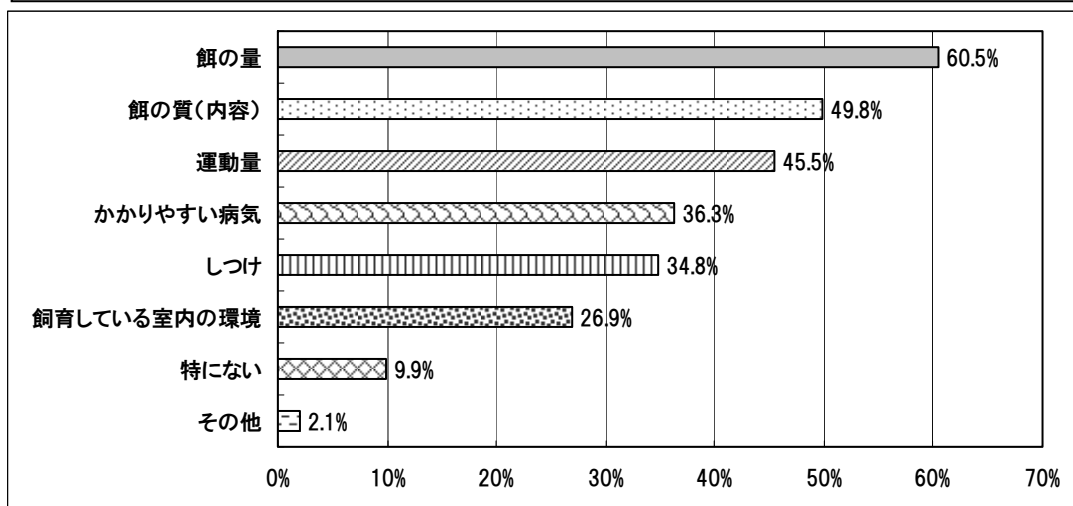
『飼っている犬種の特徴によって、飼育時に特に気をつけていることはありますか』という質問に対しては、食事量(60.5%)や運動量(45.5%)に加え、室内の環境(26.9%)など、飼っている犬種によって、さまざまなことに工夫を行っている飼い主の姿がみえます。(図13、図14)

また、飼い主の半数にあたる45.6%が犬種別に特化したサービスやケアを望んでおり、また同様に犬種別のドッグフードを利用してみたいという飼い主も約半数の44.7%にのぼることから、“犬種ごと”の特性にあわせたケアに対するニーズが高いことがうかがえます。(図15、図16)

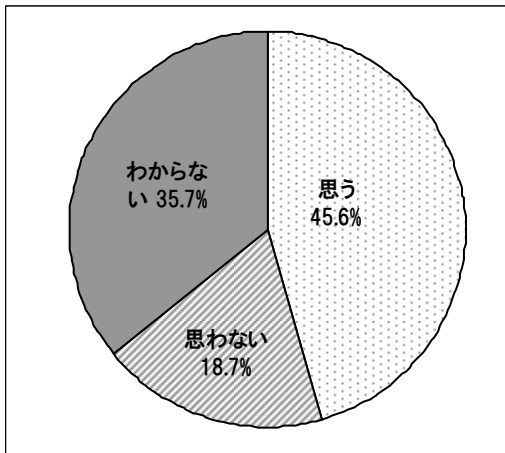
【図13】 犬種の特徴によって気をつけていることがありますか(SA) N=1000



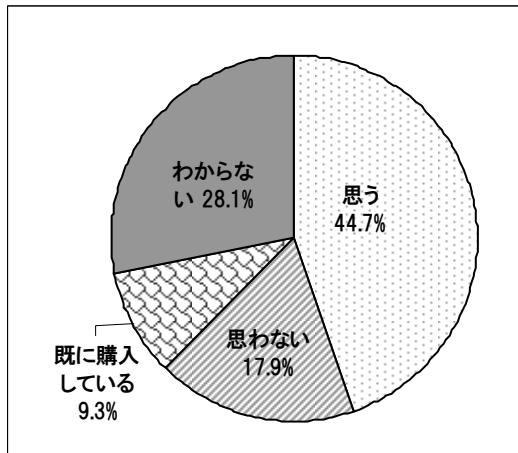
【図14】 犬種の特徴によって気をつけていること(MA) N=1000



【図 15】犬種別に特別なサービスやケアが必要だと思いますか(SA) N=1000



【図 16】犬種別にドッグフードがあれば、購入したいと思いますか(SA) N=1000



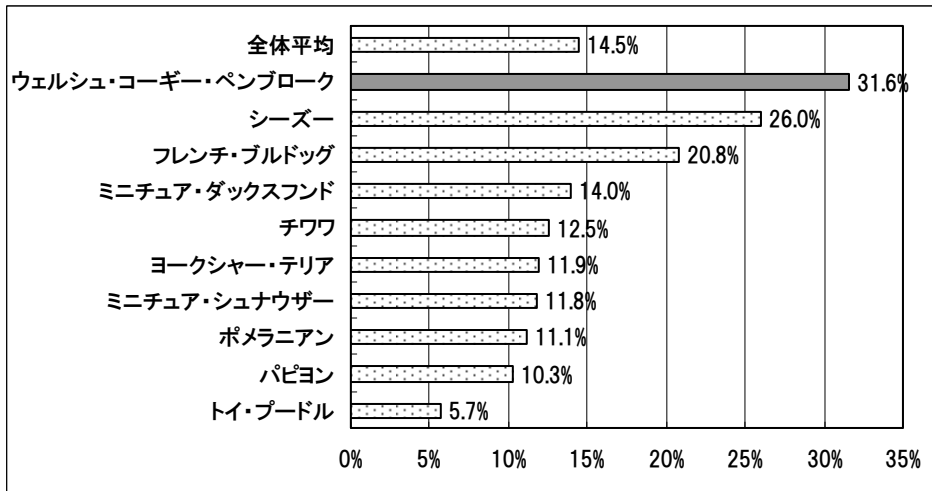
## トピックス

### 「肥満」が気になる犬種:トップは、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク 平均 14.5%に対して、倍以上の 31.6%

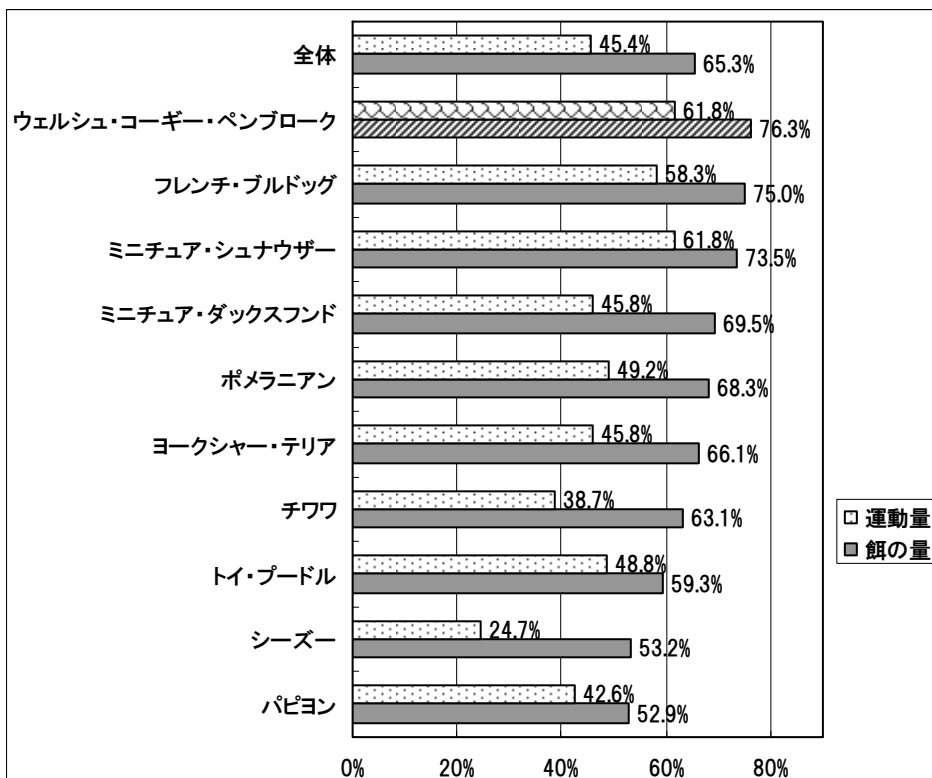
牧羊犬のようにもともと 1 日駆け回っていた犬種は、運動不足で肥満になってしまいやすい犬種がありますが、人気犬種のウェルシュ・コーギー・ペンブロークも食欲旺盛な上に相当な運動量を必要とするので、最も太りやすい犬種のうちのひとつ。

実際に、ウェルシュ・コーギー・ペンブロークの飼い主の 31.6%が「肥満」を改善したいと答えており、平均の 14.5%と比較すると 2 倍の割合になっています。また、食事量(76.3%)や運動量(61.8%)に関しても、他の犬種の飼い主に比べて、気をつけている飼い主の割合が高くなっています。

【図 17】 愛犬に関して改善したいこと(犬種別):肥満 N=1000



【図 18】 犬種の特徴によって気をつけていること(犬種別):餌の量、運動量 N=1000



## 🐾 愛犬の健康・長生きの秘訣は犬種別ケア

「人と動物が楽しく暮らせる社会づくり」の実現を推進する友愛動物病院グループ代表取締役の津田圭子先生からは本調査に対して、以下のようなコメントをいただきました。

『調査の結果からは、愛犬の健康に対する飼い主の高い意識が明らかになっており、さらに、自分の飼っている犬種ごとの特徴によってケアを行っている飼い主像がみえます。各項目を細かくみると、「餌の量」や「運動量」など、愛犬の肥満対策だけでなく、餌の質(内容)を気にかける飼い主が約半数にのぼっており、犬種別のドッグフードに対する要望が高いことから、犬種ごとの特徴にあった栄養素やカロリーを配慮した食事によって、より愛犬をいつまでも健康で長生きさせたいと考えている飼い主が増えていることがみとれます。

しかし、愛犬が長時間過ごす室内環境において、犬種別の特徴をとらえて飼育の工夫を行っている飼い主の割合としてはまだまだ少ない状況だと言えます。室内には、階段の段差やソファなど、犬種の体長や体格によって、登り下りが将来的な腰痛の原因となったりするため、気をつけないといけない箇所が多々あります。特にダックスフンドやウェルシュ・コーギーなど胴長の犬種は腰を痛めやすいため、愛犬のために室内の段差を軽減する工夫をすると良いでしょう。

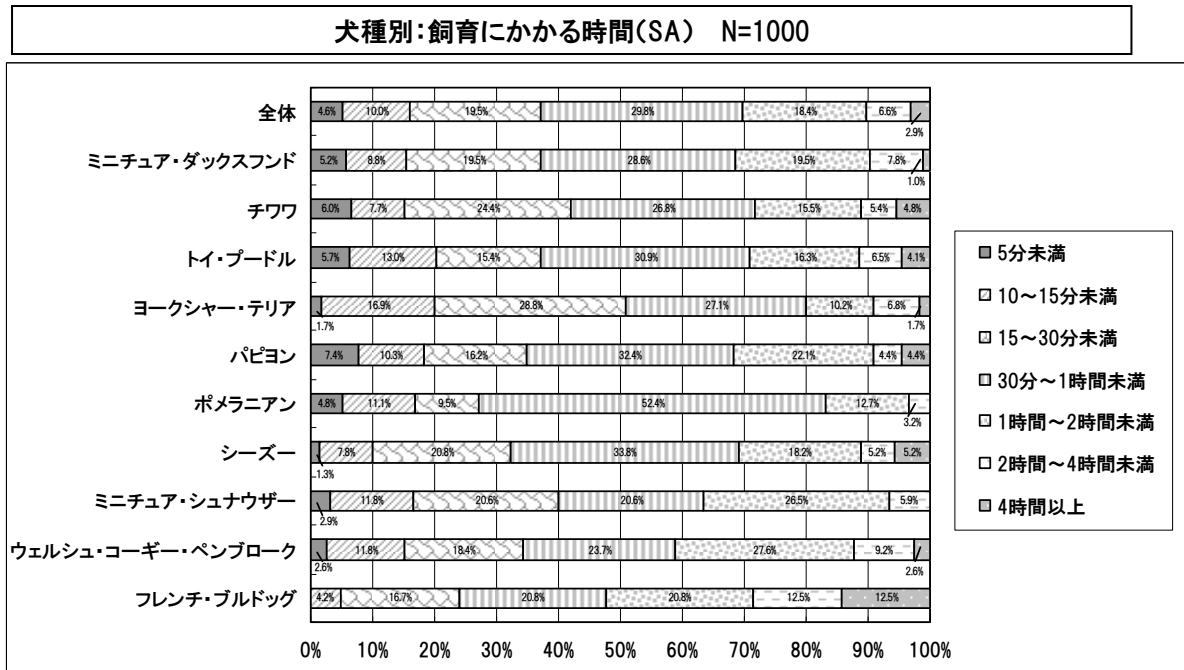
また、夏の温度調節を配慮する飼い主が多いことは、愛犬の健康にとっては非常に良いことですが、気をつけなければならないのは、愛犬の背の高さや体脂肪の量です。人間よりはるかに背が低い愛犬にとって、人間がちょうど良いと感じる冷房の温度は低すぎる場合があります。スムースコートの子ワワやヨークシャー・テリアなどの被毛や体脂肪の少ない超小型犬種にとっては、低温がストレスとなりかねません。愛犬の背の高さに温度計を設置して、こまめにチェックしてあげる必要があるでしょう。

その他、吠え癖に悩まれている飼い主も多いですが、例えばチャイムに向かって吠える場合は、原因であるチャイム音をなくすことによって簡単に解消したりすることもあります。しつけは、犬種ごとの性質にあわせて根気よく行う必要がありますが、どうしても手に負えない場合は、早めに専門家に相談しましょう。

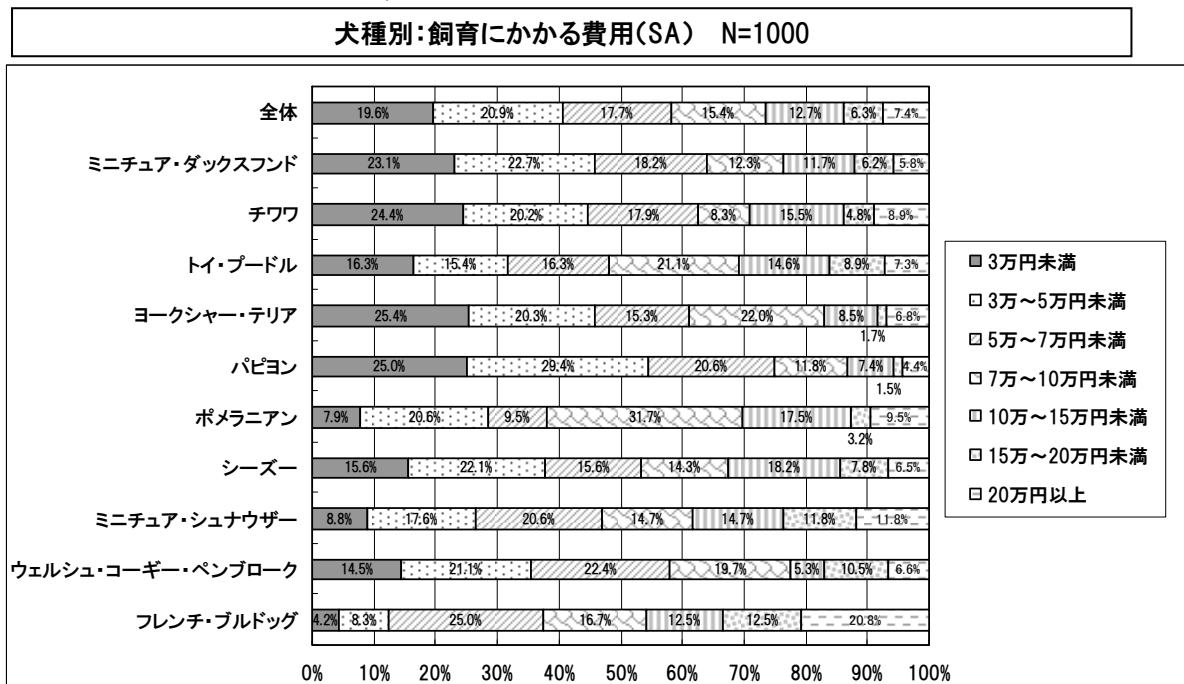
全体としては、犬種別に特化したサービスやケアを望む飼い主は約半数を占めることから、愛犬の健康のために犬種別により細かいケアを行いたいという飼い主が多いことが明らかになっていますが、上記のことからも実際にどのようにケアすればよいかわからない飼い主が多いのではないかと推測されます。飼い主・愛犬ともども幸せな生活を送るためには、飼い主がその犬種の特徴や気質を良く理解し、食事や室内環境の整備など犬種別にケアを行っていくことが重要ですが、そのためには、飼い主に分かりやすい犬種別ケアの知識の普及が重要であると言えるでしょう。』

(ご参考)

**🐾 犬の世話にかかる時間(犬種別)**



**🐾 犬の飼育にかかる年間費用(犬種別)**





マース ジャパン リミテッド  
〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-8-1 アルコタワー9F

T+ 03 5434 3311  
F+ 03 5434 3956

#### マース ジャパン リミテッドについて

マース ジャパン リミテッドは、世界 65 カ国以上で菓子、食品・飲料、ペットケア&ペットフード事業を展開している米マース インコーポレイテッド(本社:米国バージニア州マクレーン、創立:1911 年)の日本法人として1976年に設立、ペットフード事業とスナック菓子事業を展開している。主軸事業のペットフード製品ではペディグリー®、カルカン®ウiskas®、シーザー®、シーバ®、パーフェクトフィット®、グリニーズ®等のトップブランドを持ち、国内市場シェア No.1。国内従業員数は約 250 名。マース グループ全体の総従業員数は40,000 名以上、2006 年度の世界における年間総売上高は 210 億米ドル。

マースジャパンのホームページは、[www.marsjapan.co.jp](http://www.marsjapan.co.jp)